

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
38	川崎市立荻宿小学校	高嶋 幸広

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>地域の一員として人間関係の基礎作りをし、共に学び、生活しようとする態度を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心やさしく、他者を理解する子 (徳：社会性の育成)</li> <li>自ら学び、判断し、行動する子 (知：知力の育成)</li> <li>心も体も健康に生活する子 (体：心身の育成)</li> </ul>	<p>アフターコロナにおける教育活動の見直し、改善と組織のより一層の効率化を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信頼される学校、特色ある学校づくりを行うために、各組織が主体的な計画と実践を行い、各々連携と向上を図る。</li> <li>学年・学級経営の充実を目指し、諸会議を通して率直にアイデアや方法を出し合い、お互いが切磋琢磨する。</li> <li>コミュニティ・スクールの地域素材、人材を生かした体験学習をできるだけ継続し、荻小キャリア在り方生き方教育を充実させる。また地域の参画の機会を大切に、その教育力を活用する。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 思いやりのある心豊かな子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班活動や異学年交流の実施</li> <li>授業において自分の良さに気付く指導法の工夫と研究</li> <li>行事や諸活動において自主性を引き出し、楽しさを実感させる指導の工夫と研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内での係や当番活動、学年内での実行委員、クラブ、委員会活動での異学年との交流を含めた活動など、目標を明確にして取り組ませることで、活動の意義を感じ、主体的に取り組む姿が見られる。活動内容を紹介する時間や縦割りでの活動等を大切に、互いの良さを認めあえるよう実践してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生がリーダー役として意識し行動できるよう、縦割り班活動を充実した時間として確保していきたい。</li> <li>様々な場面や行事で児童が中心となって活躍できる企画、運営を行っていき、アップデートしていきたい。</li> </ul>
2 良好な友達関係づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の良さを認められるような共生*共育プログラムや道徳の工夫と推進</li> <li>学級活動やなかよし集会における人間関係づくりの支援</li> <li>いじめ防止に対する日々の取組の強化</li> <li>日々の生活につながる道徳教育の充実</li> <li>人権尊重教育の見直しと実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動のなかよし班での異学年交流や、行事を通じた保護者や地域の方との交流を大切に、コミュニティ・スクールとして生活科や総合の学習をはじめとして、本校らしい特徴を生かしている。地域とのつながりの中で学びを大切に、心の交流も図れるような活動ができたことは、工夫を続けてこれたからである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは様々な困り感や不安を抱いており、個々に応じた支援や対応が必要である。これからも子どもが安心して学校生活を送れるよう支援教育COを中心とした学年、学校というチームで取り組んでいきたい。</li> <li>友人関係については、教職員がアンテナではなくソナーで探知していけるよう、今後も早期発見早期対応に全力で取り組んでいく。</li> </ul>
3 行事に取り組む意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動における、子どもたちからの発信と場の設定</li> <li>保護者ボランティアとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識をもって伝えたり、表現したりすることを楽しみ、その成果を保護者や地域の方に見ていただける機会を設定し、実施について工夫を図った。特に運動会、ドリフェス、各学年の行事が子どもたちの目標となり、友達と協力しながら学習の成果を発揮しようとする意欲が高まっていることが実感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で培ったノウハウを生かしながら、アフターコロナとしての行事の運営を継続していく。なおかつ単なる行事精選ではなく、働き方改革に沿うように児童の実態やニーズにそぐう行事の企画、運営ができるよう効果的な運用を模索する必要がある。</li> </ul>
4 発表能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細やかな指導とともに「課題を解決させる授業」の実践と工夫</li> <li>学び合う態度をさらに伸ばす授業内容の計画と実践、その評価の研究</li> <li>創造的に諸課題を解決できる能力の育成</li> <li>発表の際のGIGA端末の有効活用の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の校内研究では「自信をもって表現できる子」の育成を目指し、授業改善に取り組んできた。教育支援ボランティア、支援教育CO、交換授業などを取り入れ、複数の教員で個に応じた支援を継続してきた。</li> <li>教えを受ける場面より、個人や友人同士で考えさせる授業を意識的に実施出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反復の学習と絡めながら、諸課題において創造的に解決できるよう、様々な場面での教師からの働きかけを継続していきたい。</li> <li>GIGA端末を利用した発表活動の授業を続けて、有効な活用が効力を発するよう実施し、検証をしていく。</li> </ul>

5	学習への主体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人の話聞くだけに終わらず、考えを深めてさらに反応できる力を養う</li> <li>相手の意見を吸収して、自らが深く考え、次の行動に生かせる指導の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中での友達との意見交流をしたり、自らの発表のブラッシュアップを図るためGIGA端末を利用した録画を修正したりすることで、たくさんの考えに触れたり、より深く考えたりすることにつながっている。</li> <li>自分自身の課題解決にむけ、困難さを感じてもねばり強く取り組む姿勢が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びが深まるように、話し合い活動や学び合いの授業を多く取り入れていく工夫を検討していく。</li> <li>子どもたちのもっている知的好奇心をくすぐるような学習課題の提示の工夫を教師同士が意見を忌憚なく出し合い実践に活かし、その研修も取り組んでいきたい。</li> </ul>
6	読書活動のさらなる推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語を中心とした読書活動の取組</li> <li>学校司書や図書ボランティアとの連携</li> <li>図書室と図書委員会の活用や工夫の研究</li> <li>良い本と出合える環境の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書ボランティアによる読み聞かせ、図書委員会による催し、教師からの本紹介、各学年が国語の学習を生かした好きな本の紹介活動、宿題での読書タイム、学校司書による国語の学習と関連付けた本の紹介など、たくさんの場面で読書に触れる機会を設けた成果が表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活字による学習効果を教師がしっかりと意識し、学校全体で読書への啓発に努める。</li> <li>学校司書さん、大型紙芝居のボランティア、図書ボランティア(ヨムヨム)との連携もさらに図りながら、読書の楽しさや図書資料の効果的な運用を推進していく。</li> </ul>
7	基本的な生活習慣の確立と健やかな体作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員自らの挨拶による挨拶励行活動</li> <li>社会のルールや文化に目を向けさせ、学校内外におけるルール遵守の指導</li> <li>家庭、地域との指導や見守りの協力体制の推進</li> <li>健康教育指導と食育指導の見直しと実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まりや規則、約束事を守って学校生活を送っている子どもたちの姿に感心させられることが多い。</li> <li>地域やご家庭での愛情深いご支援、ご指導の賜物である。</li> <li>低学年での交通安全教室などの成果が子どもたちの意識に浸透しつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内での児童同士の声掛けを促し、集団での規律ある行動に反する行いや振る舞いの予防に努める指導を心がけたい。</li> <li>善悪の判断が的確でけじめのある学校生活が続くよう今後も意識を醸成していけるよう取り組んでいきたい。</li> </ul>
8	教育相談体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援教育コーディネーターを中心とした教育相談・支援体制の強化と組織的対応の推進</li> <li>子どもの居場所がある学級づくりや相談しやすい雰囲気づくりと個に応じた教育の推進</li> <li>教師からの声掛けによる児童との関係作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師からの声かけだけに留まらず、友達にも気楽に相談できる学級づくりが概ねなされている。</li> <li>依然として悩みがあるのに相談できていない児童もわずかながら存在する。</li> <li>教育相談、個人面談が功を奏していると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援教育COを中心に、相談されるのを待つだけではなく、子どもの様子をよく観察し悩みや困りごとが深刻化する前に声をかけて聞き取っていきけるよう、教師がソナーを利用するごとく取り組んでいきたい。</li> <li>困りごと等を気軽に相談できる雰囲気づくりをしっかりと教師が意識し実践を続ける。</li> </ul>
9	安全・安心の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育推進校としての取組</li> <li>防犯教育の推進と地域との連携</li> <li>専科教員による体育指導の充実</li> <li>SNSの取扱い指導と環境整備</li> <li>保護者、地域の方による近隣巡回の協力</li> <li>わくわくプラザとの綿密な連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震、不審者の侵入、火災に対応する訓練を定期的に全校児童対象に実施し、職員とともに油断することなく対応できる体制が整ってきた。</li> <li>スマホの使い方やGIGA端末の利用などの情報モラル教育を3～6学年で実施できた。</li> <li>わくわくプラザの職員ともお互いに連絡をし合う体制ができてきたと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シェイクアウト訓練が有効的に行えているので、しっかりと身のある訓練であり続ける体制づくりが大切である。今後も子どもには知らせず、抜き打ちで実施していき、振り返らせることで定着させたい。</li> <li>わくわくプラザの職員にも学校からの情報と連絡を密にし、お互いの連絡体制を維持していきたい。</li> </ul>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での先生方の板書や校内の掲示物が工夫されていて、きれいでわかりやすい。</li> <li>授業参観を通して、子どもたちの明るさと素直さが感じられ、作品から受ける想像力にビックリさせられた。</li> <li>総合学習で児童に話をしたが、やり取りを通して子どもたちの成長の状況が分かる。先生方の指導と苦勞が伺える。</li> <li>授業で教室を回った時に、教室内のゴミが落ちているのが気になった。保護者や来客があるのが分かっているのであれば、片づけて気持ち良く迎えてほしい。</li> <li>根本的に人的不足で、一人の教員の負担が多いのがよくわかる。</li> <li>校庭開放プロジェクトに向けて、PTAや地域で環境づくりと協力をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で教職員が意見交換しアイデアを出し合えたことで、コロナ禍で培った行事やイベントの新たな実施方法が確立しつつある。新たなスタートが切れた年であった。</li> <li>全学年において貴重な体験学習や講演などを昨年度以上に実施することができたのは、地域の方々のご理解とご協力のおかげである。今後も触れ合いを通じた情操教育や地元愛の育成を続けていきたい。</li> <li>周囲に合わせるのではなく、自ら意見が言える児童を育てるべく研究を進めていきたい。</li> <li>児童のことを第一に考え、安全・安心で楽しい学校生活を送れるように、全教職員が常に意識して、教育活動を検討し企画運営することを今後の学校生活につなげていきたい。</li> <li>令和8年度(2026年度)の70周年記念事業にむけて、児童、保護者、地域とともにその準備の取組と諸活動において関連した活動を実施していきたい。</li> </ul>